

第8回（平成10年度）BELCA賞 ロングライフ部門 表彰作品

よみうり文化センター

所在地 大阪府豊中市新千里東町1-1-3
用途 公開スタジオ、スイミングプール、
図書室、ショールーム
竣工 1977年
所有者 読売テレビ放送株式会社
株式会社 よみうり文化センター
設計者 大成建設株式会社一級建築士事務所
施工者 大成建設株式会社
維持管理者 株式会社 よみうり文化センター



1950年代に千里の丘陵に新たな時代を開くニュータウン計画が着手され、70年に開催された万国博でこの地は全国の注目を集めた。安全で美しく住み良い街造りはその第一の使命であるが、加えてここに定住する人々と共に芽生え根付く地域文化の育生が真に生き生きとした人の住む街に不可欠の条件である。よみうり文化センターは情報発進と地域文化活動の拠点としてニュータウンの表玄関とも云える駅前立地条件に恵まれ、温かみある赤煉瓦のイメージを持つ外観と共に地域の人々に親しまれ周辺の風景の一部として定着している。

この建築は、大ホールの中心として室内プール、文化教室、図書、展示、医療関係室、またテナントとして店舗、ショールーム等多彩な複合施設として、立地の特性と地域住民の要望に応じ新しい型のコミュニケーションの場として企画建設され年々その存在感を高めている。この多様に複雑で且つ、質とスケールの異なる諸室を機能の総合、自立性を持たせる巧みな建築計画を基に内部機能を一体として包む外壁は、威圧感を持たせないよう配慮されたやわらかなひだと横に連続性を持たせまた、無機的なスカイラインに対して上階ブルードームの曲線によるシルエットはこの建物のテーマ「母と子の文化」の優しさを表現している。タイル壁面は入念な施工と凹凸、濃淡の組合せによるよごれを目立たせない配慮を持った巧みなタイルワークにより良好に美しく保たれている。また、80年代に入り講座、教室等活動の増加要望に応じて増築された別館は、愛称「煉瓦通り」の小路を本館との間に配し建築の外部環境と一体化して店舗と各施設との相乗効果を生み、小コミュニティの賑わいをさらに演出し、周辺の活性化への貢献は高く評価される。

建設時には第二次オイルショックに直面した、9.3ヶ月と短い工期の厳しい制約条件下にこれを克服する新たな工夫と技術開発としての、ステージ上部スノコの機材一体としての組込み、及びプール開閉式ドーム鉄骨、それらの事前組立揚重による工期の短縮と精度品質の確保等、その施工努力が各所に見られる。また、スタジオ機能移設に伴う貸しホールへの用途変更に広いステージと600の客席との一体化による多様な利用提示及び400インチ超大型ビデオプロジェクター導入等による多様な利用分野拡大また、プールでは初の試みである天空光と一体となる開閉式天井の話題性を利し早朝解放、妊婦、ベビー水泳等ユニークな企画運営による利用層の拡大等、所有者が建築の持つ特性を引き出しその稼働率を高める運営への努力が伺える。また、機能を良好に維持管理するために必要な「維持保全計画書」「維持保全基準マニュアル」等も整備し確実に実行されている。

以上のように地域文化を担う施設としての誇りと自律性を持って運営にあたる所有者の情熱、それに應える設計、施工者の努力が三者一体となり社会環境の変化に柔軟な運営と建築への日常的な対応は建築の機能的、社会的劣化をも超えて長寿化を見事に実現しており、これらに支えられこの建築はこれからもこの地の人々に愛され長寿を保ち続けることと確信しBELCA賞の受賞に相応しい建築であろう。